

1 後期 保護者アンケート集計結果より

調査人数 : 1年 59名/70名 2年 75名/83名 3年 59名/69名
 4年 63名/70名 5年 65名/81名 6年 63名/76名
 回答数 384名/449名 (回収率 85.5%) ※さくら学級6名は当該学年でカウント

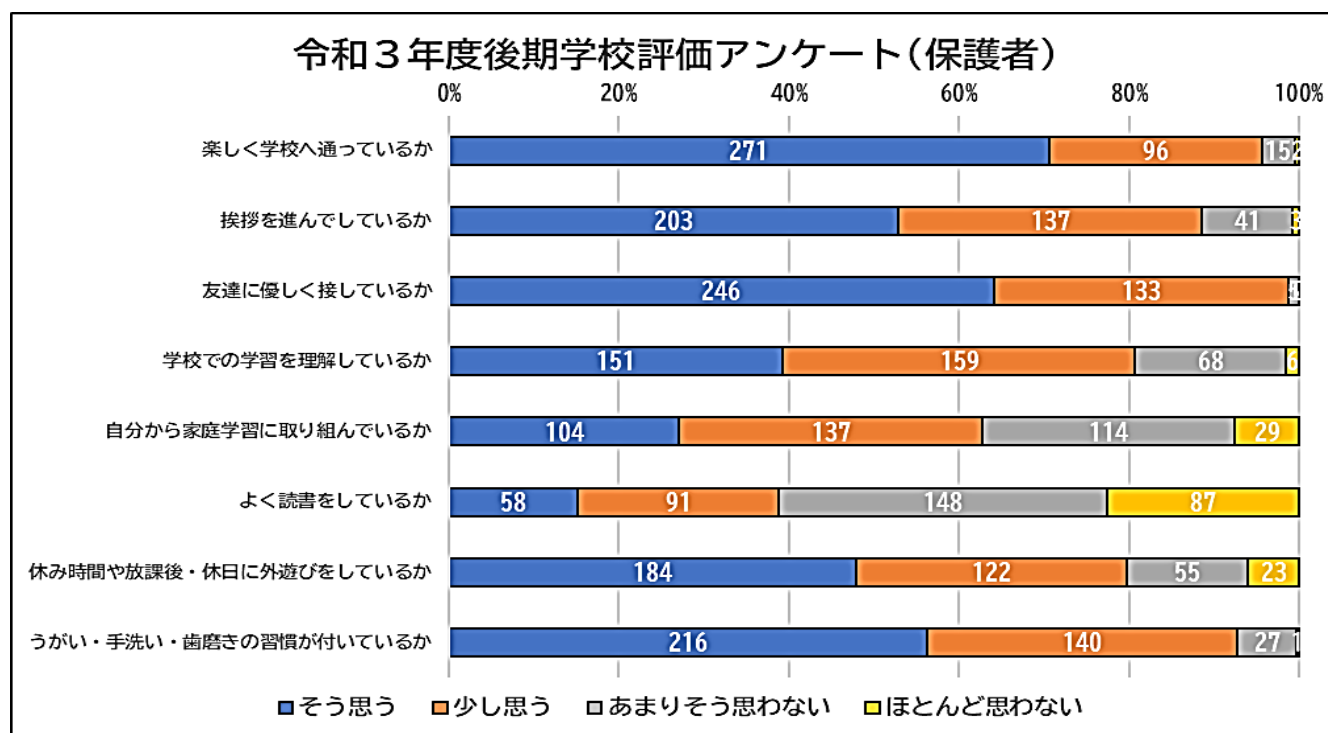
①全項目の学年別平均値

※表の数値は、そう思う(4) ・ 少しそう思う(3) ・ あまりそう思わない(2) ・ ほとんどそう思わない(1)として計算したときの平均値を表す。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	平均	R3年度 前期平均	R2年度 後期平均	R2年度 前期平均
楽しく学校へ通っているか	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.7	3.7	3.6	3.6	3.4
挨拶を進んでしているか	3.2	3.4	3.3	3.4	3.6	3.5	3.4	3.3	3.3	3.3
友達に優しく接しているか	3.6	3.6	3.6	3.6	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5
学校での学習を理解しているか	3.3	3.1	3.1	3.1	3.2	3.3	3.2	3.1	3.2	3.4
自分から家庭学習に取り組んでいるか	2.9	2.8	2.9	2.7	3.0	2.8	2.8	2.8	2.8	3.0
よく読書をしているか	2.3	2.5	2.4	2.2	2.4	2.1	2.3	2.4	2.8	3.0
休み時間や放課後・休日に外遊びをしているか	3.3	3.4	3.3	3.2	2.9	3.2	3.2	3.1	3.2	3.1
うがい・手洗い・歯磨きの習慣が付いているか	3.6	3.5	3.5	3.4	3.5	3.4	3.5	3.5	3.5	3.7

※色付きは今年度後期平均よりも数値が下回っているもの

②項目別の人数別割合



考察

「①全項目の学年別平均値」における全体の平均をみると、「よく読書をしているか」の項目以外は前期平均を上回っていることがわかる。前期と比較し、新型コロナウイルス感染状況が少し落ち着いた期間もあり、子供たちが前期よりも伸び伸びと学習ができた、友達と関わり合いの中での生活が楽しくなったりしたことが理由として考えられる。制限がある中での学習から制限が少し解除となり、子供同士での学び合いも含めて楽しく学習ができ、係活動や委員会活動、縦割り活動等の様々な活動が少しの制限の中で行うことができたことや、休み時間にも密になるような活動は制限があったが、友達とたくさん関わりながら外遊びや室内での遊びを楽しむことができたことが考えられる。

後期平均値よりも低かった項目では、「学校での学習を理解しているか」が2・3・4年生の3学年であった。「よく読書をしているか」の項目では、平均の中央値が2.5と考えると、全体平均が2.3で-0.2ポイント低く、更に4年生と6年生では全体平均よりも低い数値となっている。「自分から家庭学習に取り組んでいるか」の項目では、5年生以外は2ポイント台の数値であり、全体的にも低いことが分かる。一方、全体平均が数値として高い項目は、「楽しく学校へ通っているか」が3.7、「友達に優しく接しているか」が3.6となっていることが分かる。

学習の理解度や家庭学習の習慣、読書の習慣については、特にコロナ禍が続く中、学校では学習内容や活動に制限が加わり、密にならない学習形態等を第一に考えなければならず、悩みながら様々な工夫を行っている。基礎・基本的な学力の向上については、コロナ禍であっても学校として努力をし続けていかなければならないことから、日々の反省をもとに児童に達成感や成就感をもたせ楽しく学ぶことができるようにすることが必要である。また、タブレット型PCを使ったりリモート学習も行っているが、家庭のネット環境をはじめ学校・児童・保護者のITスキルによっても左右されるため、場合によってはプリントやドリル等の課題を行う場合も多くあり、より保護者が不安に感じたことが分かる。家庭学習や読書の習慣化については、学校だけでなく各家庭での協力は必須であり、PCやスマートフォン、テレビゲーム等の遊びの時間にけじめを付け、学習や読書の時間に向けさせるようにしていくことが大切である。

「②項目別の人数割合」から、「楽しく学校へ通っているか」「友達に優しく接しているか」の設問に対して「そう思う」と回答している保護者が多いことが分かる。また、「うがい・手洗い・歯磨きの習慣が付いているか」においても、60%に満たないものの「そう思う」と回答している。一日の半分以上の時間を学校という集団生活を行う場において、コロナ禍であり活動制限が多い中でも、友達との関わり合いや学習の楽しさを見だし、児童が楽しく学校へ通っているということが、保護者の目線からも感じられていることが分かる。うがい・手洗い・歯磨きに関しては、感染症予防の観点からも、家庭でも注意してくださっており、習慣化されていることが分かる。様々な感染症予防となるので、学校・家庭で引き続き行っていきたい。また、「挨拶を進んでしているか」の設問においても、「そう思う」「少しそう思う」を合わせると80%を超えている。家庭の中だけでなく、セーフティーウォッチャーや地域の方々へも挨拶の輪がさらに広がっていきけるようにしたい。挨拶を通して地域の方々が児童の顔を知ること、事件や事故、不審者等から児童を見守ることができ、地域全体で児童を見守る体制を広げることができると考えられる。

後期学校アンケートの結果を踏まえ、本校の学校教育目標具現化を目指し、本校の課題を改善に全職員で取り組んでいくとともに、児童や保護者にとって学校がより魅力的な場になるようにしていきたい。

2 後期 児童学校生活アンケート集計結果より

調査人数 : 1年 68名/68名 2年 79名/83名 3年 59名/66名
 4年 68名/69名 5年 75名/81名 6年 73名/75名
 さくら 2名/6名 全校 422名/449名 (回収率 94.0%)

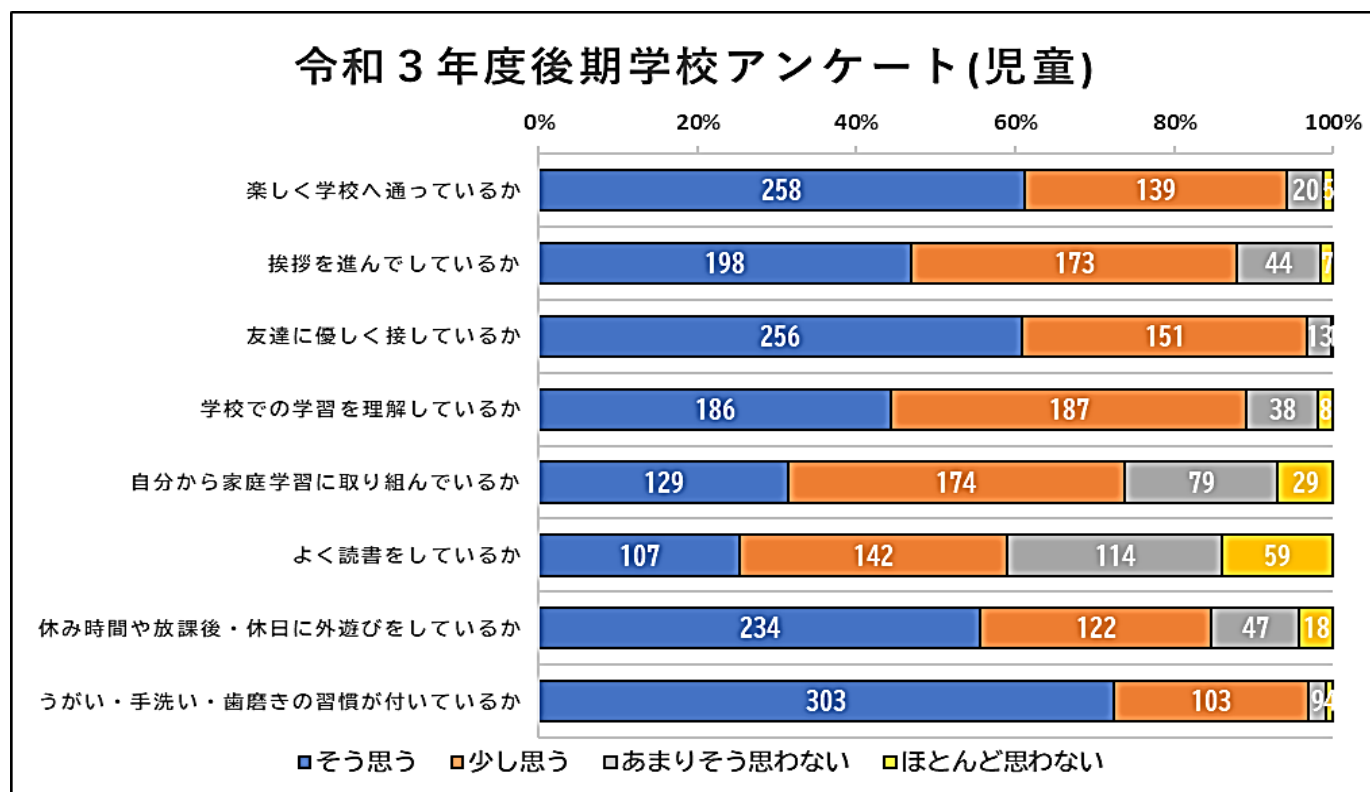
①全項目の学年別平均値

※表の数値は、そう思う(4) ・ 少しそう思う(3) ・ あまりそう思わない(2) ・ ほとんどそう思わない(1)として計算したときの平均値を表す。

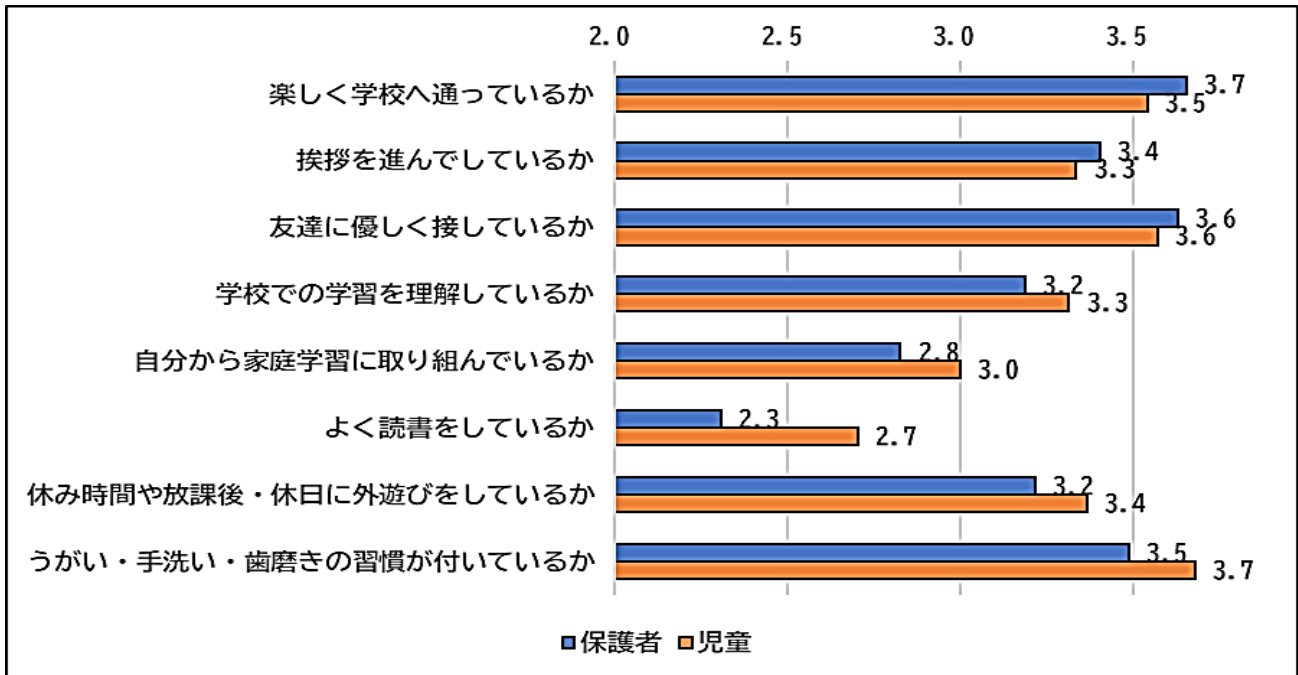
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	平均	R3年度 前期平均	R2年度 後期平均	R2年度 前期平均
楽しく学校へ通っているか	3.6	3.6	3.6	3.4	3.4	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4
挨拶を進んでしているか	3.4	3.2	3.4	3.2	3.4	3.4	3.3	3.2	3.3	3.3
友達に優しく接しているか	3.6	3.6	3.6	3.5	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5
学校での学習を理解しているか	3.4	3.4	3.3	3.3	3.1	3.3	3.3	3.3	3.2	3.4
自分から家庭学習に取り組んでいるか	3.5	3.1	3.1	2.8	2.7	2.8	3.0	3.2	3.0	3.0
よく読書をしているか	3.0	2.9	2.6	2.8	2.6	2.3	2.7	2.8	3.0	3.0
休み時間や放課後・休日に外遊びをしているか	3.6	3.5	3.5	3.4	2.9	3.3	3.4	3.2	3.2	3.1
うがい・手洗い・歯磨きの習慣が付いているか	3.6	3.6	3.5	3.7	3.7	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7

※色付きは昨年度平均や今年度平均よりも数値が下回っているもの

②項目別の人数別割合



③保護者の結果との比較



考察

①全項目の学年別平均値表から、今年度前期平均と比較し数値が上昇している項目は「楽しく学校へ通っているか」「挨拶を進んでしているか」「休み時間や放課後・休日に外遊びをしているか」の3項目であった。コロナ禍ではあったが、一時感染が低下した時期があり、学校での活動も少し緩和され、学習や遊びでの友達との関り方に広がりが見られ、生き生きとした姿がたくさん見られるようになったことが大きな要因であると考えられる。また、挨拶に関しては、各学級を中心に学校全体で目標にしていたため、児童も意識を高めたのではないかと考えられる。

一方、低下している項目は「自分から家庭学習に取り組んでいるか」「よく読書をしているか」の2項目であった。「自分から家庭学習に取り組んでいるか」については、前期より0.2低下しており、特に4・5・6年生で後期平均よりも下回っている。放課後等での家庭での過ごし方について、家庭学習を行う時間より、スマートフォンやタブレットを使用しているオンラインゲームで友達等と遊ぶことも多く、オンラインゲームでの友達とのトラブルをそのまま学校生活に抱えてくる児童も増加している。「よく読書をしているか」については、前期平均より0.1低下しており、3・5年生、特に6年生の平均が低下している。

③保護者の結果との比較グラフでは、保護者と児童の数値差が大きい項目は「よく読書をしているか」が0.4差となっており前期と同様の結果である。今後も力を入れていく課題の一つである。また、前期は保護者の数値より児童の数値が上回っていたが、後期では3項目で児童より保護者が上回っていることもわかった。家庭での会話や児童の様子から、後期は高い評価をした保護者が多いという結果であった。

上記のことから、前期よりも数値が上昇をしているものの、課題とされることもあり、来年度も学校・家庭・地域が連携し協力し合いながら、児童がより充実した学校生活を送ることができるよう、アンケート結果を基に指導改善に取り組んでいきたい。